

2016. **12**
No. **183**

調査レポート

県内勤労者の消費・貯蓄動向 ～第56回くらしのアンケートから～

要	約	1
1	家計の状況	3
2	今冬の買物計画	4
3	おけい事、塾・サークル	6
4	貯蓄	7
5	ローン等の利用	9
6	冬季ボーナス	10
7	お歳暮	12
8	冬休み、年末・年始の過ごし方	14



山梨中央銀行

要 約

1. 家計の状況

- 1年前と比べた暮らし向きは、「良くなった」が5.6%、「悪くなった」が13.1%、「変わらない」が81.3%。県内勤労者の暮らし向きは、昨冬と比べて若干の改善がみられるものの、回答者の8割超が「変わらない」とするなど、回復実感の乏しい状況が継続。
- 家計上の悩みは、「収入の伸び悩み」が最も多く、以下、「税金等負担増」、「物価上昇」の順。

2. 今冬の買物計画

- この冬購入したい商品は、「婦人服」が最多で、以下、「紳士服」、「ハンドバッグ・靴」、「子供服」、「スマートフォン」の順。「婦人服」、「紳士服」の比率が上昇しており、今冬は上位の定番品目である衣料品に対する購入意欲の強まりがみられる。
- 昨冬比で購入予定比率が上昇した品目は、「婦人服」、「紳士服」、「ハンドバッグ・靴」などの10品目。一方、低下した品目は、「子供服」、「スマートフォン」、「家具・インテリア」などの10品目。

3. おけいこ事、塾・サークル

- 参加したいおけいこ事や塾・サークルは、「料理」が1位で、以下、「ゴルフ」、「ダンス・フィットネス等」、「外国語会話」、「書道・絵画」、「ガーデニング」の順。
- 年代別では、20代と30代では、「料理」、「ゴルフ」、40代では、「ダンス・フィットネス等」、「料理」、50代以上では、「ダンス・フィットネス等」、「ガーデニング」が人気。

4. 貯 蓄

- 平均保有額は539万円で、昨冬比22万円の減少。
- 現在利用している金融商品は、「銀行預金」、「ゆうちょ銀行貯金」、「生命保険」の順。また、今後増やしたい商品は、「銀行預金」、「ゆうちょ銀行貯金」、「投資信託」の順。
- 貯蓄する際重視する点は、「元金の保証があり安心」、「預け入れ引き出しが自由」、「利回りが良い」の順。安全性、流動性を重視する傾向が窺われる。

5. ローン等の利用

- ローン等の利用者は26.5%で、平均借入額は昨冬比89万円増の1,213万円。
- 利用目的は、「土地・住宅の購入」が最も多く、以下、「自動車・家電品の購入」、「教育資金」の順。
- 借入先は、「銀行」が最も多く、以下、「月賦・クレジット会社」、「銀行以外の金融機関」の順。

6. 冬季ボーナス

- 冬季ボーナスの予想は、「減りそう」が「増えそう」を上回り、「増えそう」から「減りそう」を引いた差は昨冬と比べて拡大。県内景気が力強さを欠くなかで、県内勤労者は今冬のボーナス支給に対して慎重に捉えている状況。
- 手取り予想額は、「1～20万円」が最も多く、以下、「21～30万円」、「31～40万円」、「41～50万円」の順。
- 使いみちは、「貯蓄」が最多で、以下、「買物」、「旅行・レジャー」、「教育費」と、昨冬と比べて上位項目の順位に変動はみられず。

7. お歳暮

- お歳暮を贈る予定者は、57.4%。贈る件数は「3～5件」が最多。平均件数は3.6件で、昨冬比0.2件の減少。
- 1件あたりの単価は、「3,000円程度」が最多。平均単価は4,011円と、昨冬（4,009円）とはほぼ同水準であった一方、平均贈答件数は減少したことから、平均予算総額は14,458円と昨冬（15,253円）に比べて減少。
- 贈りたい商品は「ビール（含むビール券）」が最多で、以下、「ハム」、「お菓子」、「食用油」、「調味料」の順。

8. 冬休み、年末・年始の過ごし方

- 「特に予定なし」を除くと、「日帰り旅行」が最多で、以下、「帰省」、「国内宿泊旅行」、「スポーツ・健康づくり」、「海外旅行」の順。昨冬と比較すると、「日帰り旅行」、「国内宿泊旅行」が上昇した一方、「海外旅行」、「帰省」は低下。
- 国内宿泊旅行の宿泊数をみると、「1泊」が最も多く、以下、「2泊」、「3泊」の順。

● 調査実施要領

調査対象：県内の勤労者 1,088名

調査方法：当行の営業店を通じ対象者に依頼

回答者数：1,061名（回答率97.5%）

調査時期：平成28年10月下旬～11月上旬

〈回答者内訳〉

内訳	項目	回答者数	構成比
年代別	20代	256人	24.1%
	30代	260	24.5
	40代	244	23.0
	50代以上	299	28.2
家族	既婚	678	63.9
	未婚	379	35.7
性別	男性	531	50.0
	女性	526	49.6
合計		1,061	100.0

※ 合計には年代等未回答者を含む

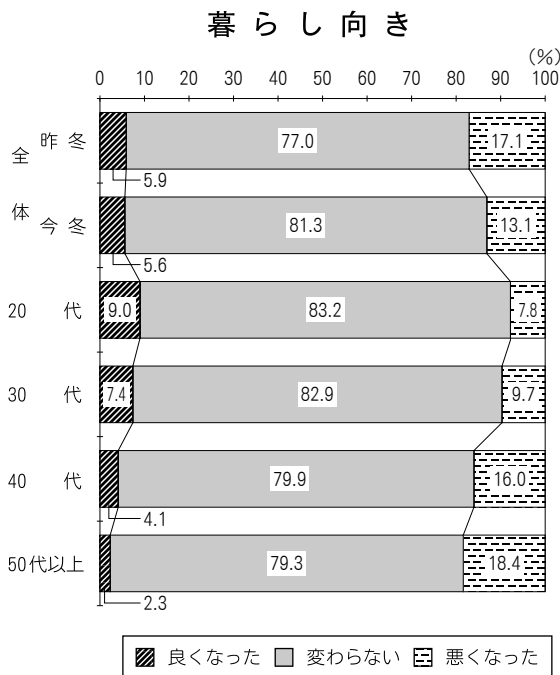
1 家計の状況

回復実感の乏しい状況が継続

1年前と比べた暮らし向きは、「良くなった」が5.6%、「悪くなった」が13.1%、「変わらない」が81.3%となった。この結果、「良くなった」から「悪くなった」を引いた差は△7.5となり、昨冬比で3.7ポイント改善した。

県内勤労者の暮らし向きは、昨冬と比べて若干の改善がみられるものの、回答者の8割超が「変わらない」とするなど、回復実感の乏しい状況が続いている。

年代別にみると、「変わらない」は各年代とも8割程度となっており大きな差がみられないが、「悪くなった」は20代では7.8%にとどまる一方、40代では16.0%、50代以上では18.4%となっている。このことから、若年層に比べて生活費負担の重い中高年層で、暮らし向きに厳しさを感じている状況が窺われる。

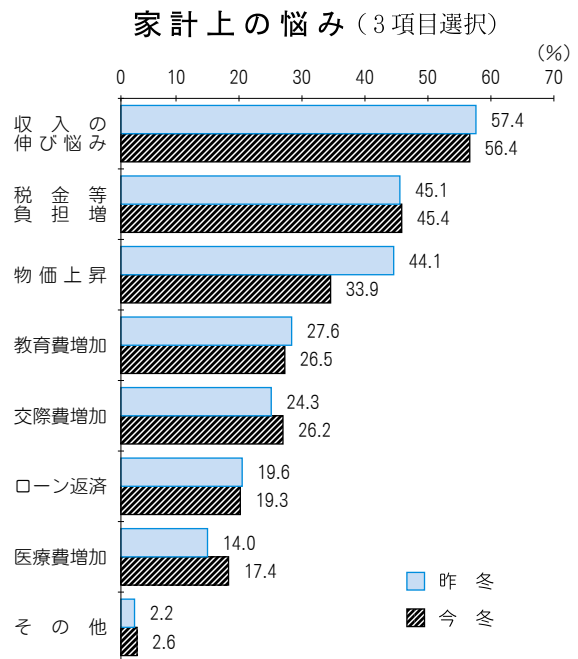


家計上の悩みは「収入の伸び悩み」が最多

家計上の悩み（3項目選択）は、「収入の伸び悩み」が最も多く、以下、「税金等負担増」、「物価上昇」と続いた。

1位の「収入の伸び悩み」は、回答比率が昨冬の57.4%から56.4%へと若干低下したものの、引き続き最多となっており、所得環境の厳しさが続いている。また、3位の「物価上昇」は、10.2ポイント低下している。昨冬と比べると、円高等により物価上昇が抑えられていることが影響しているとみられる。

上記以外の項目をみると、「教育費増加」、「ローン返済」が低下した一方、「税金等負担増」、「交際費増加」、「医療費増加」が上昇した。このうち、「医療費増加」の上昇幅が若干大きくなっている。



2 今冬の買物計画

衣料品の購入意欲が高まる

この冬購入したい商品（20品目について複数回答）は、「婦人服」が最多で、以下、「紳士服」、「ハンドバッグ・靴」、「子供服」、「スマートフォン」と続いている。

昨冬と比べて購入予定比率が上昇した品目は「婦人服」、「紳士服」、「ハンドバッグ・靴」、「暖房機器」、「貴金属・アクセサリー・時計」、「乗用車」などの10品目（昨冬13品目）となった。

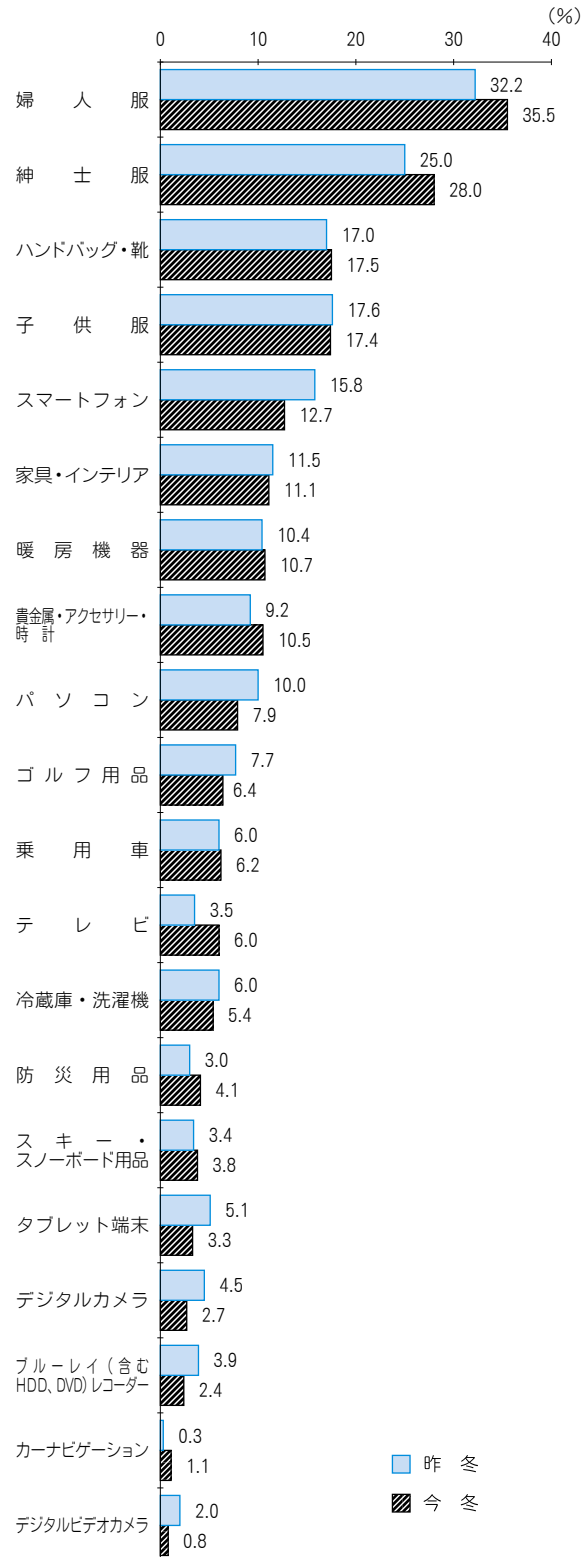
「婦人服」、「紳士服」の上昇が目立っているが、積極的な購入姿勢というよりは、デジタル関連製品を始めとして新規に購入したい品目が少ないなか、上位の定番品目である衣料品が選択されているとみられる。また、このところ低迷していた「テレビ」で購入意欲が高まっており、家電エコポイント制度等を利用して購入した層の買い替え需要が徐々に発生してきている可能性が考えられる。

デジタル関連製品の購入予定比率が低下

購入予定比率が低下した品目は、「子供服」、「スマートフォン」、「家具・インテリア」、「パソコン」、「ゴルフ用品」、「冷蔵庫・洗濯機」などの10品目（昨冬7品目）であった。

「スマートフォン」や「パソコン」などデジタル関連製品の購入予定比率が低下しているが、普及率が高まっていることや、機能等において目新しさが感じられなくなっていること等が要因として考えられる。

主要商品の購入予定状況（複数回答）



若年層でインターネットショッピングが定着

この冬購入したい商品の購入予定先（複数回答）は、「ホームセンター・大型専門店」が最も多く、以下、「一般小売店」、「スーパー・ショッピングセンター」、「百貨店」、「インターネット」（同順位）と続いた。

昨冬と比較すると、「ホームセンター・大型専門店」、「一般小売店」、「百貨店」で比率が低下した一方、「スーパー・ショッピングセンター」、「インターネット」、「アウトレット」、

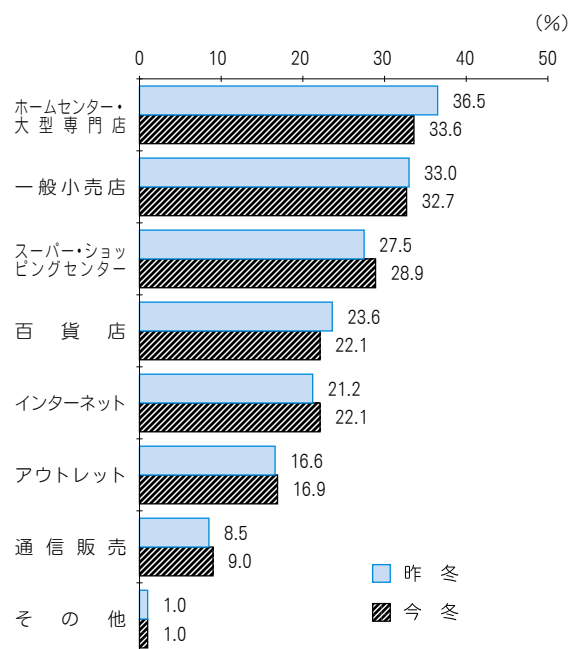
「通信販売」は上昇した。

このうち、「インターネット」は、比率が上昇傾向で推移しているが、今回調査においては「百貨店」と同率となった。年代別にみると、20代と30代で比率が3割程度と高くなっている。スマートフォンの普及等を背景に、若年層を中心に、インターネットが買い物の一般的な手段として定着してきている状況が窺われる。

今冬購入予定の商品ベスト5

	全体	20代	30代	40代	50代以上
1位	婦人服	婦人服	婦人服	婦人服	婦人服
2位	紳士服	ハンドバッグ・靴	紳士服	子供服	紳士服
3位	ハンドバッグ・靴	紳士服	子供服	紳士服	ハンドバッグ・靴、暖房機器（同順位）
4位	子供服	貴金属・アクセサリー・時計	ハンドバッグ・靴	家具・インテリア	
5位	スマートフォン	スマートフォン	スマートフォン	ハンドバッグ・靴	家具・インテリア、冷蔵庫・洗濯機（同順位）

購入予定の店舗（複数回答）



3 おけいご事、塾・サークル

「料理」が比率を伸ばし1位へ

参加したいおけいご事や塾・サークル（複数回答）は、「料理」が1位となり、以下、「ゴルフ」、「ダンス・フィットネス等」、「外国語会話」、「書道・絵画」、「ガーデニング」の順となった。

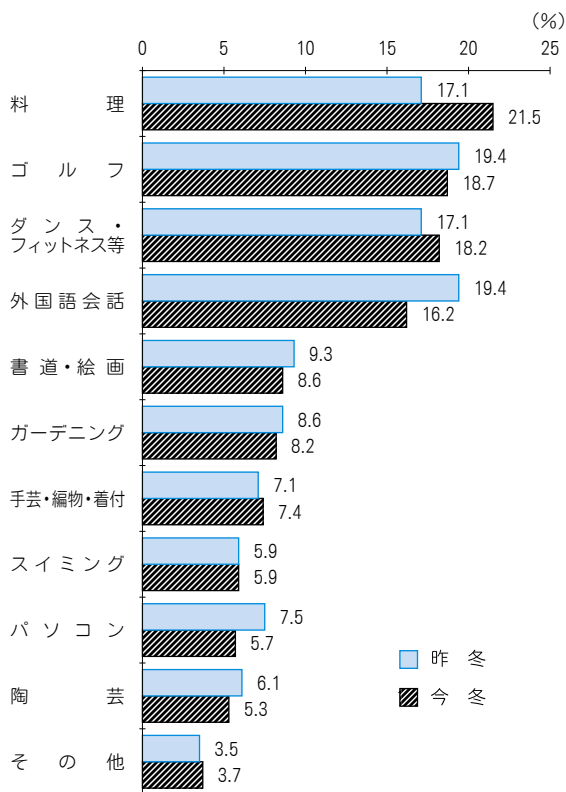
昨冬と比較すると、「料理」の比率が大幅に上昇し1位となった。一方、昨冬同率で1位であった「ゴルフ」と「外国語会話」は、それぞれ2位と4位に順位を下げた。

昨冬と比べて購入予定比率が上昇したのは、「料理」のほか、「ダンス・フィットネス等」、「手

芸・編物・着付」であった。一方、下落したのは、「ゴルフ」、「外国語会話」のほか、「書道・絵画」、「ガーデニング」、「パソコン」、「陶芸」であった。なお、「スイミング」は昨冬と同率であった。

年代別に人気の高い項目をみると、20代と30代では、「料理」、「ゴルフ」、40代では、「ダンス・フィットネス等」、「料理」、50代以上では、「ダンス・フィットネス等」、「ガーデニング」となっている。

やってみたいおけいご事、塾・サークル
(複数回答)



やってみたいおけいご事、塾・サークル
(複数回答)

	全体 (%)	20代 (%)	30代 (%)	40代 (%)	50代以上 (%)
料理	21.5	33.2	26.2	18.4	9.7
ゴルフ	18.7	30.5	24.6	9.4	11.0
ダンス・フィットネス等	18.2	18.8	20.4	18.9	15.4
外国語会話	16.2	23.4	17.3	16.0	9.4
書道・絵画	8.6	6.6	6.5	9.0	11.7
ガーデニング	8.2	3.5	6.5	8.2	13.7
手芸・編物・着付	7.4	7.0	7.3	6.6	8.4
スイミング	5.9	5.5	4.6	4.5	8.7
パソコン	5.7	6.3	3.8	5.7	7.0
陶芸	5.3	1.2	4.2	4.9	10.0
その他	3.7	3.5	2.3	4.9	4.0

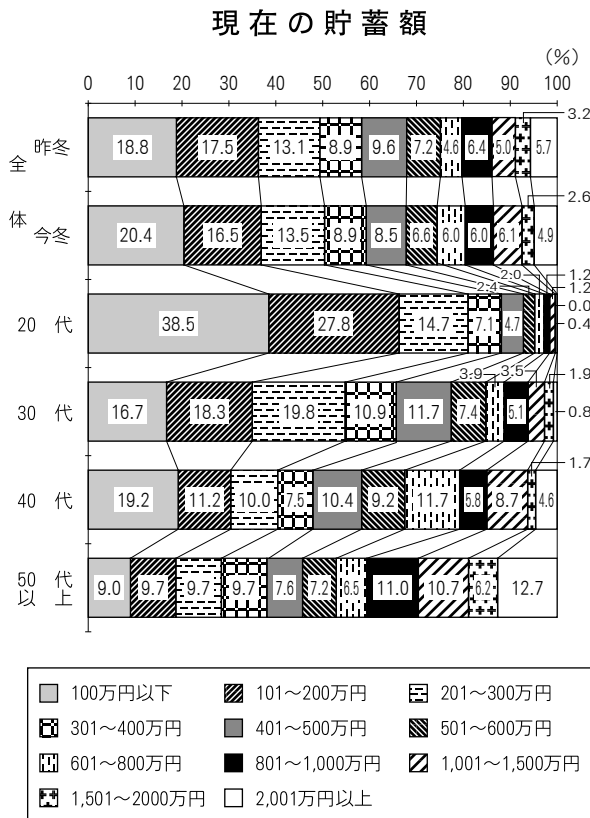
4 貯蓄

平均保有額は539万円

現在の貯蓄額の分布をみると、「100万円以下」が最も多く、以下、「101万円～200万円」、「201万円～300万円」、「301万円～400万円」の順となった。

また、平均貯蓄額は539万円（昨冬561万円）で、昨冬に比べて22万円減少した。

年代別の平均貯蓄額をみると、20代が209万円（昨冬比+24万円）、30代が391万円（同+4万円）、40代が587万円（同△27万円）、50代以上が923万円（同△86万円）となっている。

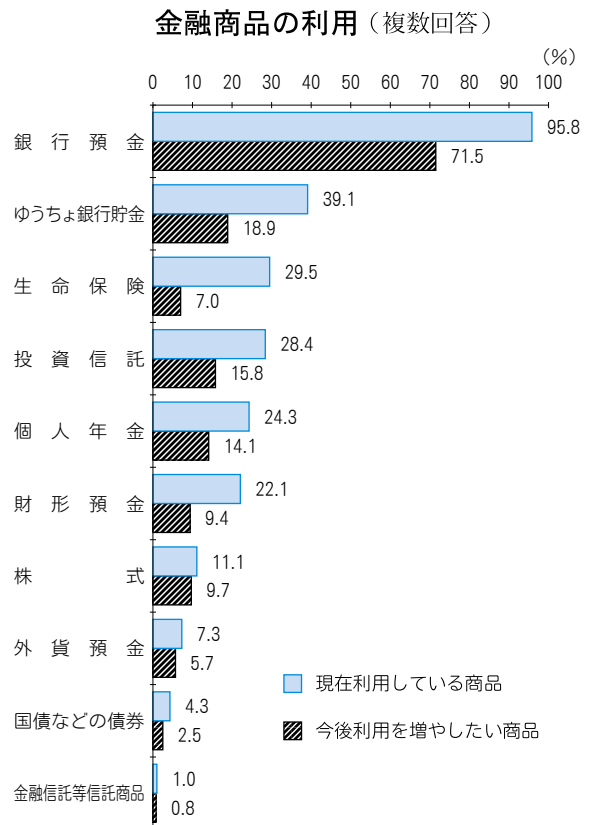


利用金融商品の最多は「銀行預金」

利用している金融商品（複数回答）は、「銀行預金」が95.8%と最も多く、以下、「ゆうちょ銀行貯金」、「生命保険」、「投資信託」、「個人年金」、「財形預金」の順となった。

昨冬と比較すると、「個人年金」、「外貨預金」などで利用率が上昇した一方、「財形預金」、「銀行預金」などで低下した。

年代別に利用率をみると、「銀行預金」は各年代とも95%前後と、高い比率を占めている。「株式」、「生命保険」は年代が高くなるに連れて利用率が上昇している一方、「財形預金」は年代が低いほど利用率が高くなっている。また、男女別にみると、「株式」については男性の、「ゆうちょ銀行貯金」については女性の比率が高くなっている。



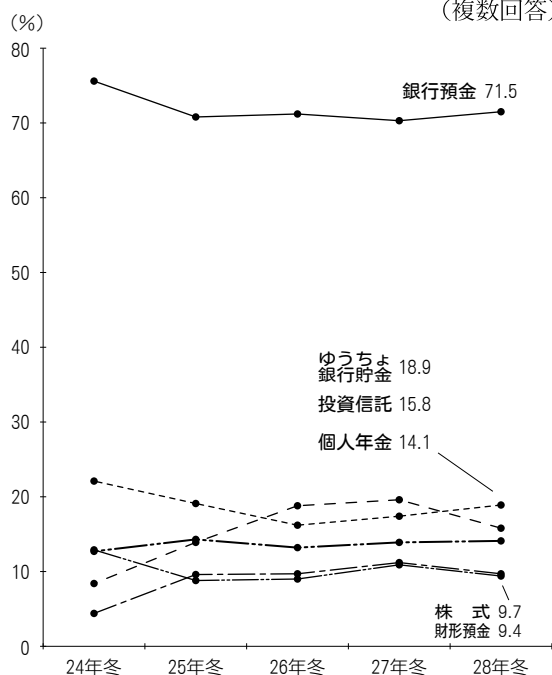
「投資信託」、「株式」の比率が低下

今後増やしたい金融商品（複数回答）は、1位が「銀行預金」で、以下、「ゆうちょ銀行貯金」、「投資信託」、「個人年金」と続いた。

昨冬と比較すると、「外貨預金」（昨冬比+2.6ポイント）の伸びが目立ったほか、「ゆうちょ銀行貯金」（同+1.5ポイント）、「銀行」（同+1.2ポイント）などで比率が上昇した。一方、株価の低迷を反映して「投資信託」（同△3.8ポイント）、「株式」（同△1.5ポイント）などで比率が低下した。

年代別にみると、各年代とも「銀行預金」の比率が高いが、その他の項目をみると、20代では「投資信託」、「財形預金」の、40代以上では「ゆうちょ銀行貯金」の比率が比較的高くなっている。また男女別にみると、「株式」、「投資信託」については男性の、「個人年金保険」、「銀行預金」、「ゆうちょ銀行貯金」については女性の比率が高くなっている。

今後利用を増やしたい金融商品の推移
(複数回答)



重視する項目は「元金保証」が最多

貯蓄をする際、重視する点（3項目選択）は、「元金の保証があり安心」が最多で、以下、「預け入れ引き出しが自由」、「利回りが良い」、「利用金融機関が自宅から近い」、「値上がり期待できる」の順となり、昨冬と同様の結果となった。

各項目の比率を昨冬と比較すると、「預け入れ引き出しが自由」が2.4ポイント、「元金の保証があり安心」が1.6ポイント各々上昇しており、流動性、安全性を重視する傾向が窺われた。その他の項目では、「利用金融機関が自宅から近い」、「利用金融機関のサービスが良い」などが上昇した一方、「利用金融機関に友人、知人がいる」などは低下した。

上位項目を年代別にみると、「元金の保証があり安心」は年代が上昇するに連れて比率が上昇している一方、「値上がり期待できる」は年代が低いほど比率が高くなっている。昨冬と比べると、20代では「元金の保証があり安心」の上昇、40代では「利用金融機関が自宅から近い」の上昇、「元金の保証があり安心」、「利回りが良い」の低下、50代以上では「預け入れ引き出しが自由」の上昇が、各々目立っている。

貯蓄する際重視する点（3項目まで選択）
(%)

	全体	20代	30代	40代	50代以上	昨冬順位
元金の保証があり安心	66.2	63.7	64.2	66.0	70.2	1
預け入れ引き出しが自由	48.4	48.4	45.0	45.9	53.5	2
利回りが良い	44.3	47.7	42.3	41.0	45.8	3
利用金融機関が自宅から近い	24.1	20.7	23.5	27.5	24.7	4
値上がり期待できる	21.1	24.6	21.2	20.5	18.7	5
利用金融機関のサービスが良い	12.7	11.3	13.1	16.4	10.7	6
利用金融機関が勤務先から近い	7.4	8.2	7.7	7.8	6.0	7
勤務先が利用金融機関と取引している	7.0	5.1	6.9	7.8	8.0	8
利用金融機関に友人、知人がいる	4.7	5.1	4.2	4.5	5.0	9
利用金融機関が集金にきてくれる	2.7	0.8	1.5	2.5	5.7	10
その他	0.8	0.8	1.5	0.8	0.3	-

5 ローン等の利用

平均借入額は1,213万円

ローン等の利用状況を見ると、利用者は26.5%で、平均借入額は1,213万円となった。利用目的（複数回答）は、「土地・住宅の購入」が最も多く、以下、「自動車・家電品の購入」、「教育資金」と続いた。

昨冬と比較すると、利用者の比率は1.7ポイント低下したが、平均借入額は89万円増加した。また、利用目的では、「土地・住宅の購入」、「旅行・レジャー」、「教育資金」、「教育資金以外の生活資金」の比率が上昇した反面、「自動車・家電品の購入」は低下した。

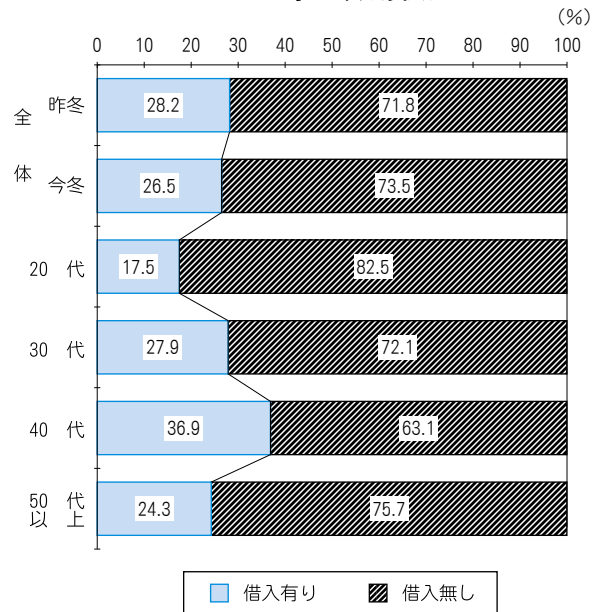
一方、借入先（複数回答）は、「銀行」が最も多く、以下、「月賦・クレジット会社」、「銀行以外の金融機関」の順となった。昨冬と比較すると、「その他」、「勤務先」の比率が上昇した一方、「政府系金融機関」、「月賦・クレジット会社」、「銀行以外の金融機関」、「銀行」は低下した。

これらを年代別にみると、ローン利用者はマイホーム需要が高まる40代が最も多く、以下、30代、50代以上、20代の順となっており、平均借入額は、20代556万円、30代1,413万円、40代1,459万円、50代以上1,148万円となった。

また、利用目的は、20代で「自動車・家電品の購入」、30代以上で「土地・住宅の購入」がそれぞれ最多となっている。

なお、借入先は、すべての年代で「銀行」が1位となっているが、2位は20代、30代で「月賦・クレジット会社」、40代以上で「銀行以外の金融機関」となっている。

ローン等の利用状況



ローン等の借入先・利用目的

(複数回答)

(%)

		全体	20代	30代	40代	50代以上
利 用 目 的	土地・住宅の購入	64.6	13.6	65.7	77.5	78.6
	自動車・家電品の購入	24.1	52.3	17.1	19.1	20.0
	教育資金	7.3	4.5	7.1	4.5	12.9
	旅行・レジャー	4.4	11.4	5.7	3.4	0.0
	教育資金以外の生活資金	2.9	4.5	2.9	4.5	0.0
	財テク資金	0.7	0.0	2.9	0.0	0.0
	その他	2.6	4.5	2.9	2.2	1.4
借 入 先	銀行	63.5	40.9	70.0	61.8	72.9
	月賦・クレジット会社	14.6	38.6	14.3	10.1	5.7
	銀行以外の金融機関	11.3	4.5	7.1	16.9	12.9
	住宅金融支援機構等 政府系金融機関	5.1	0.0	5.7	9.0	2.9
	勤務先	1.8	0.0	0.0	2.2	4.3
	その他	6.2	13.6	7.1	2.2	5.7

6 冬季ボーナス

手取り額は減額予想が増加

昨冬と比べた今冬のボーナス（手取り額）の予想は、「増えそう」が8.1%、「減りそう」が14.6%となり、引き続き「減りそう」が「増えそう」を上回った。

両比率の差（「増えそう」－「減りそう」）は、△6.5と昨冬の△2.6から3.9ポイント悪化した。県内景気が力強さを欠くなかで、県内勤労者は今冬のボーナス支給に対して慎重に捉えている状況が窺える。

年代別にみると、20代では「増えそう」の比率が「減りそう」の比率を上回る一方、30代以上では「減りそう」の比率が「増えそう」の比率を上回った。また、昨冬と比較してすべての年代において「減りそう」の比率が増加しており、年代を問わず、ボーナスの減額を見込む回答が多くなっている。

平均手取り予想額は38万5千円

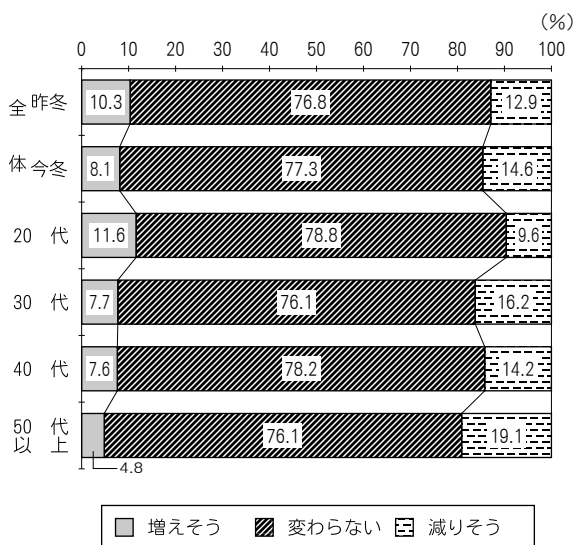
手取り予想額は、「1～20万円」が最も多く、以下、「21～30万円」、「31～40万円」、「41～50万円」の順となった。

昨冬と比較すると、「1～20万円」、「21～30万円」、「51～70万円」、「71～100万円」、「101万円以上」の比率が上昇、「31～40万円」、「41～50万円」の比率が低下した。

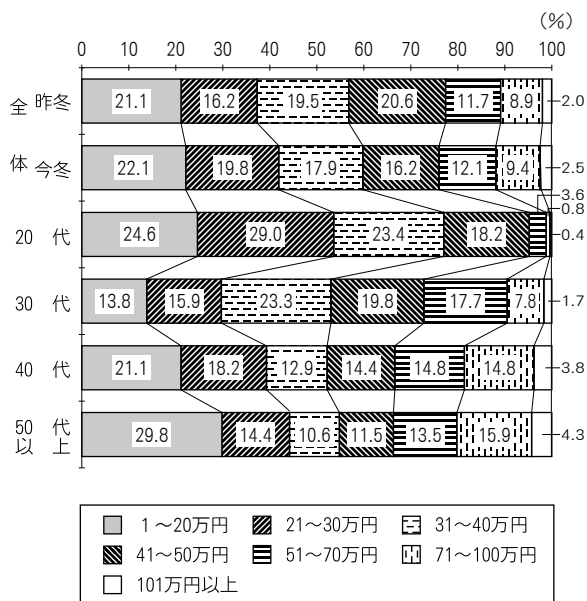
平均手取り予想額は38万5千円（昨冬39万円）と、昨冬に比べて5千円の減少となった。

年代別にみると、20代が29万3千円（昨冬29万9千円）、30代が41万5千円（同40万3千円）、40代が43万3千円（同42万6千円）、50代以上が41万8千円（同44万6千円）で、昨冬比では30代、40代が各々1万2千円、7千円の増加、20代、50代以上が各々6千円、2万8千円の減少となっている。

冬季ボーナス増減予想



ボーナス手取り予想額



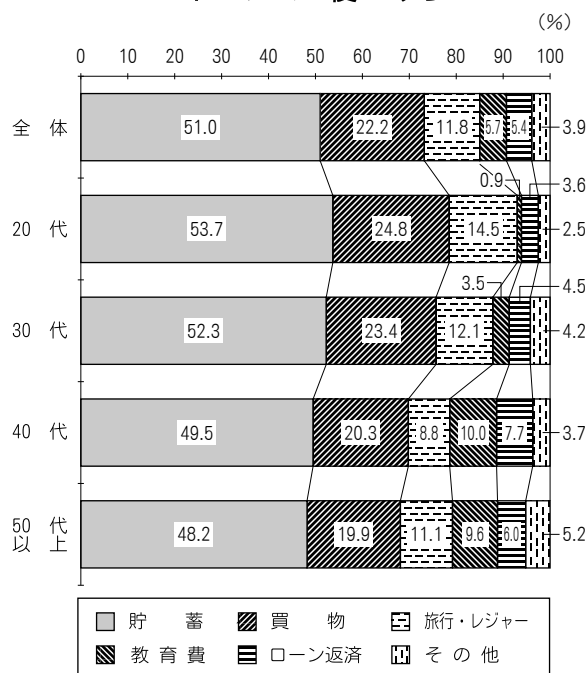
「貯蓄」への配分割合が過去最高に

ボーナスの使いみちは、「貯蓄」の比率が最も高く、次いで「買物」、「旅行・レジャー」、「教育費」となり、昨冬と比べて上位項目の順位に変動はなかった。

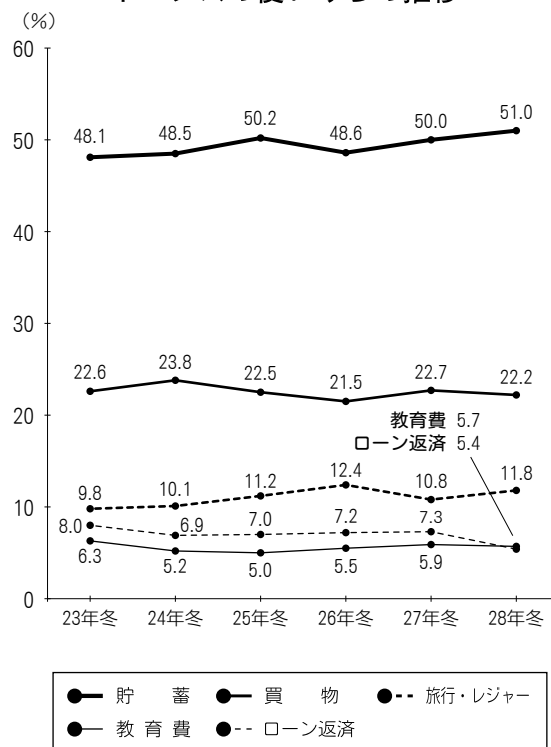
昨冬と比較すると、「貯蓄」、「旅行・レジャー」の比率が上昇しており、特に「貯蓄」は5割を超え、平成元年の調査開始以来、過去最高の比率となった。一方で、「ローン返済」、「買物」、「教育費」の比率は低下した。

年代別にみると、各年代とも1位、2位は「貯蓄」、「買物」の順となったが、3位は20代、30代、50代以上が「旅行・レジャー」、40代が「教育費」となった。昨冬と比較すると、20代、40代、50代以上で「貯蓄」が上昇した一方で、すべての年代で「ローン返済」が低下した。

ボーナスの使いみち



ボーナスの使いみちの推移



7 お歳暮

贈る件数は平均 3.6 件

今冬、お歳暮を贈る予定のある人は 57.4%で、昨冬（56.2%）と比べて上昇した。

贈る件数は「3～5 件」が最も多く、以下、「2 件以下」、「6～9 件」、「件数未定」、「10 件以上」の順となった。昨冬と比較して、「6～9 件」、「10 件以上」が低下しており、平均贈答件数は 3.6 件（昨冬 3.8 件）と、昨冬を 0.2 件下回った。

年代別にみると、贈る予定のある人の比率は 20 代が 27.4%に止まっている一方、30 代は 50.4%、40 代は 63.1%、50 代以上は 84.2%となっており、年齢が高くなるに連れてお歳暮を贈る比率が高くなっている。

また、贈る件数は、20 代、30 代では「2 件以下」が、40 代、50 代以上では「3～5 件」がそれぞれ最も多くなっており、年代別の平均贈答件数は、20 代が 2.4 件、30 代が 3.0 件、40 代が 3.6 件、50 代以上が 4.3 件となっている。

平均単価は 4,011 円、平均予算は 14,458 円

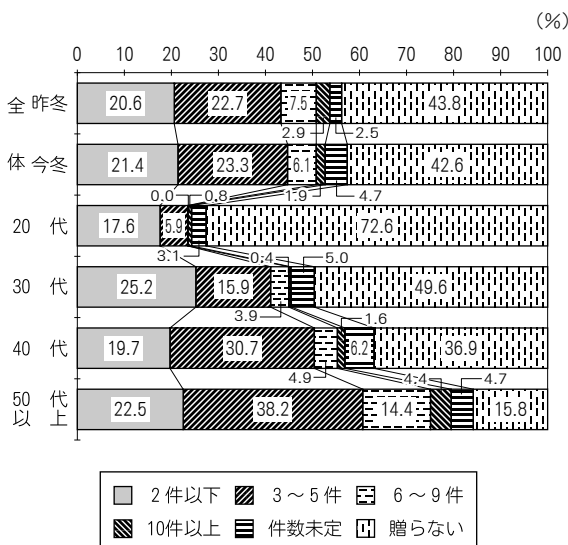
1 件あたりの単価は、「3,000 円程度」が 45.6%と最も多く、次いで「5,000 円程度」が 39.0%となっており、この両者で 8 割超を占めた。

昨冬と比較すると、「2,000 円程度」などの比率が上昇した一方、「3,000 円程度」、「5,000 円程度」の比率は低下しており、平均単価は 4,011 円と、昨冬（4,009 円）とほぼ同水準となった。

このように、平均単価が昨冬とほぼ同水準であった一方、平均贈答件数は減少したことから、平均予算総額は 14,458 円と昨冬（15,253 円）に比べて 795 円減少した。

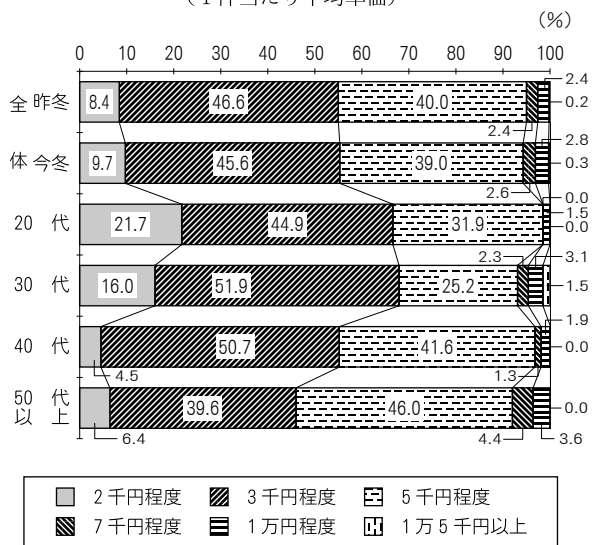
なお、年代別の平均単価は、20 代が 3,516 円、30 代が 3,833 円、40 代が 3,969 円、50 代以上が 4,284 円となっており、また、平均予算総額は、各々 8,450 円、11,514 円、14,306 円、18,443 円となった。

お歳暮を贈る件数



お歳暮の相場

(1 件当たり平均単価)



「お菓子」の支持率が上昇

お歳暮に贈りたい商品（5品目まで選択）は、「ビール」（含むビール券、以下同じ）が最多で、以下、「ハム」、「お菓子」、「食用油」、「調味料」の順となった。上位5品目を昨冬と比較すると、1位の「ビール」と2位の「ハム」は同順位となっている一方、「お菓子」、「調味料」は順位が上昇するなど変動がみられた。

支持率をみると、上昇した品目は7品目で、このうち「お菓子」（昨冬比+4.6ポイント）の上昇が目立っている。一方、低下した品目は12品目で、このうち「直送生鮮品」（同△3.2ポイント）、「お茶・コーヒー」（同△2.7ポイント）、「煮貝」（同△2.6ポイント）の低下がやや目立っている。

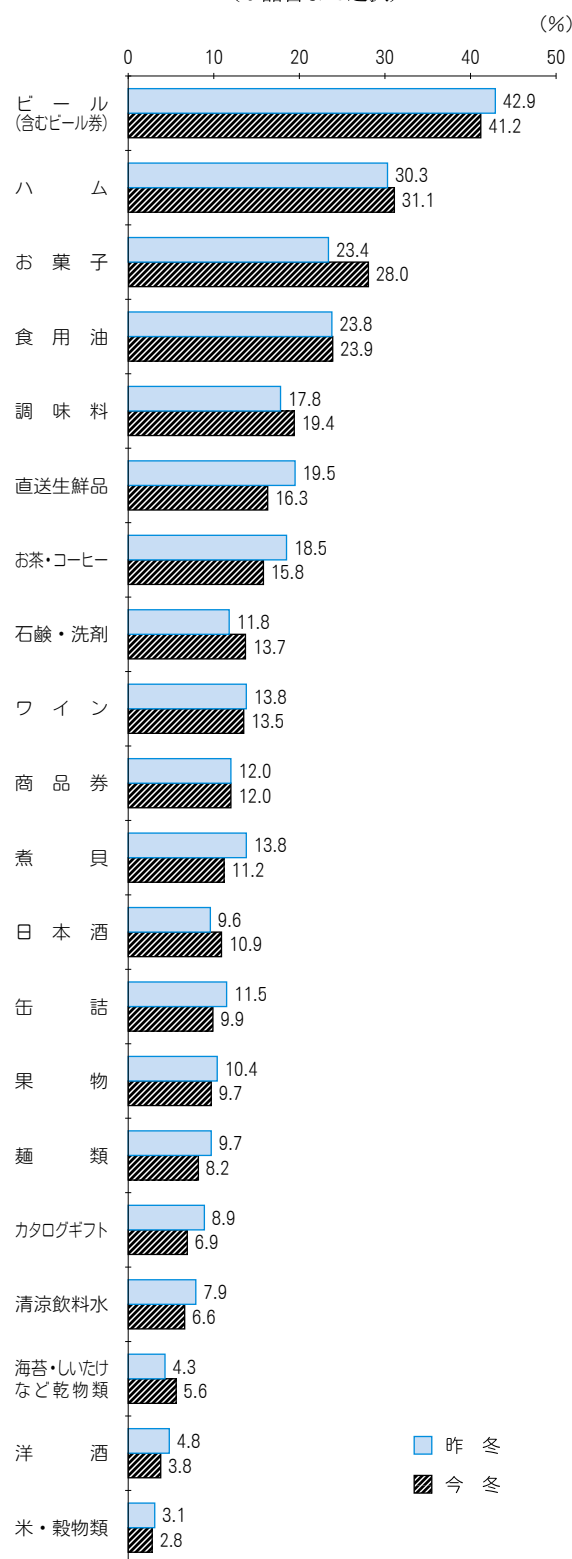
なお、上位品目を年代別にみると、各年代とも1位は「ビール」で、昨冬から順位に変動はなかった。一方、2位は30代以下では「お菓子」、40代以上では「ハム」となるなど、2位以下では年代によってばらつきがみられた。

お歳暮に贈りたい商品ベスト5

順位	20代	30代	40代	50代以上
1	ビール (含むビール券)	ビール (含むビール券)	ビール (含むビール券)	ビール (含むビール券)
2	お菓子	お菓子	ハム	ハム
3	調味料	ハム	お菓子	お菓子
4	ハム	食用油	食用油	食用油
5	ワイン	調味料	お茶・ コーヒー	直送生鮮品

お歳暮に贈りたいもの

（5品目まで選択）



8 冬休み、年末・年始の過ごし方

国内旅行が増加

冬休み、年末・年始の過ごし方（複数回答）は、「日帰り旅行」が32.7%を占め最多となり、以下、「帰省」、「国内宿泊旅行」、「スポーツ・健康づくり」、「海外旅行」の順となった。なお、「特に予定なし」は、39.2%となっている。

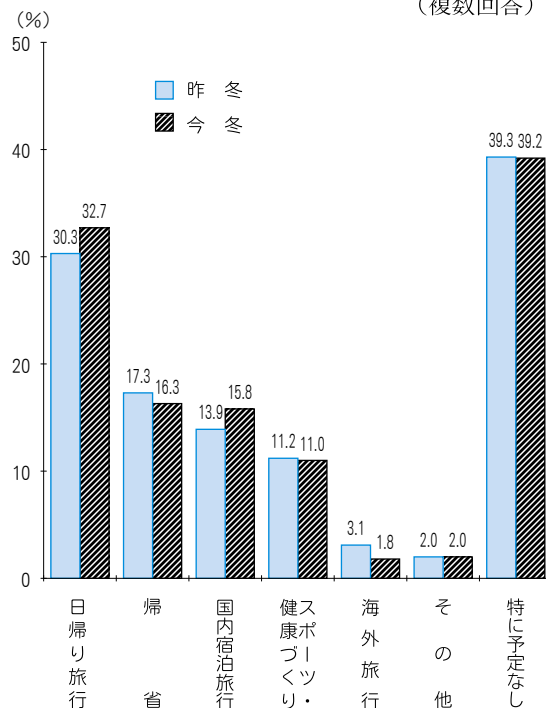
昨冬と比較すると、「日帰り旅行」（昨冬比+2.4ポイント）、「国内宿泊旅行」（同+1.9ポイント）が上昇し、国内旅行を計画する回答の割合が増加した。一方、「海外旅行」（同△1.3ポイント）、「帰省」（同△1.0ポイント）は低下した。

年代別にみると、20代、30代は「日帰り旅行」が、40代、50代以上は「特に予定なし」が最多となっている。年代が低いほど「日帰り旅行」を、年代が高いほど「特に予定なし」を選ぶ割合が高くなっている。昨冬と比較すると、20代で「日帰り旅行」（同+10.1ポイント）の上昇が目立った。

一方、「国内宿泊旅行」の宿泊日数をみると、「1泊」が65.3%を占め、以下、「2泊」（29.8%）、「3泊」（4.0%）、「4泊以上」（0.8%）の

冬休み、年末・年始の過ごし方

（複数回答）



順となった。昨冬と比べて「1泊」（同+4.3ポイント）が上昇、「2泊」（同△3.2ポイント）などが低下しており、近年の傾向である宿泊日数の短期化が窺われる結果となった。

冬休み、年末・年始の過ごし方（複数回答）

(%)

	日帰り旅行	帰省	国内宿泊旅行	スポーツ・健康づくり	海外旅行	その他	特に予定なし
20代	47.3	13.7	19.5	16.4	2.3	1.2	29.7
30代	36.2	17.7	20.0	12.3	2.7	1.9	32.3
40代	27.9	25.4	11.9	9.8	0.8	1.6	41.8
50代以上	21.4	10.0	12.0	6.4	1.3	3.0	51.2
全体	32.7	16.3	15.8	11.0	1.8	2.0	39.2

平成28年12月1日(木)
～平成29年1月31日(火)

《山梨中銀》 冬のキャンペーン

お金の「色分け」してますか？
この冬は山梨中銀で大切な資産について考えるチャンス！

使いたい

守りたい

増やしたい

使って
お得!

キャンペーン期間中にJIMOCAまたは山梨中銀DCカードで10万円以上ご利用いただいた個人のお客さま
DCカードハッピープレゼントポイント
抽選で200名さまに1,000ポイント(5,000円相当)プレゼント!

貯めて
お得!

対象商品をご契約いただいた
個人のお客さま

先着
6,000名さまに



「おめかしカップ&スプーンセット」
プレゼント!

ATM・インターネットにてご契約いただいたお客さまは、窓口
までお申し出いただけますようお願いいたします。
景品は、お1人さまおひとつとさせていただきます。

※色をお選びいただくことはできませんので、ご了承ください。

さらに!

抽選で50名さまに



DCカードハッピープレゼントポイント
4,000ポイント(20,000円相当)
プレゼント!

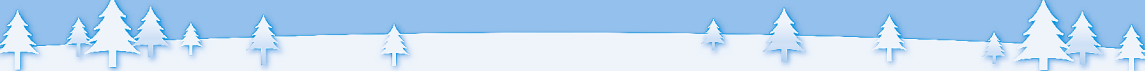
※JIMOCA・山梨中銀DCカードの契約が必要です。

NISA口座開設のお客さまには

500円プレゼント!

(ジュニアNISAのお客さまには
クオカード500円分プレゼント!)

※対象商品のお取引金額に応じて抽選権をお付けいたします。応募のお手続きは不要です。
※キャンペーン終了後、当行所定の方法により、厳正な抽選を行います。キャンペーン期間中に中途解約した場合、抽選権は無効となります。



こちらからもキャンペーン
情報をご覧ください!

ホームページへアクセス!

山梨中銀 冬のキャンペーン

検索

店頭またはATMコーナーに、くわしい
キャンペーン内容を記載したリーフ
レットをご用意しております。

LINE@ × @yamanashibank

株式会社山梨中央銀行 / 登録金融機関 関東財務局長(登金)第41号 / 加入協会 日本証券業協会

くわしくは山梨中央銀行の窓口 または フリーダイヤルへどうぞ

0120-201862 照会コード 9

(受付時間)月曜日～金曜日 9:00～17:00(ただし、祝日・12/31～1/3は除きます。)

山梨中央銀行

http://www.yamanashibank.co.jp/
(平成28年12月1日現在)